

国内のネットワークの形成

船橋邦子・山田由理子

境界を超えた多様な主体とのネットワークの形成

◆活動の目的

ジェンダー平等と多様性の視点を包括した災害政策の実現

⇒災害に強い、レジリエントな持続可能、尊厳ある生が侵害されることのない
差別や暴力のない社会

◆活動 ロビー活動と活動の主体形成⇔ネットワークの重要性

被災地の当事者の声、支援者とのネットワーク

(男女共同参画センター、NVEC)

政策策定のための当事者、専門家、大学、学会 とのネットワーク

提言の実効性を高めるための行政、議員とのネットワーク

政策実現、その声を拡大するための個人、女性団体とのネットワーク

DRRを目指す全国市民社会組織とのネットワーク(JCC-DRR)、SDGs市民ネットワーク

JWNDRRまでのプレリūd(2011・3.20~10.31) —「災害・復興と男女共同参画6・11シンポジウム」

1. 実行委員会への呼びかけから発足まで

3.20 第4次男女共同参画基本計画の検討会からスタート

4.21 実行委員会発足 5.5 趣意書、企画書公表

5.9 民主党女性議員との面談、要望書の提出

5.29 国会議員との院内集会

この間、シンポまで要望書提出15本

実行委員会→32の全国規模の、100を超す地域を拠点に活動する
多種多様な 女性団体

★全国地域婦人団体連絡協議会、ふえみん婦人民主クラブ、
I女性会議など戦後、すぐに誕生した組織

★日本女性科学者の会、日本災害看護学会などの学界
日本女医会、大学女性協会などの職能団体

★高齢社会をよくする女性の会、全国フェミニスト議員連盟、
アジア女性資料センター、北京JACなどアドヴォカシー中心の
団体

★全国女性会館協議会など

★各都道府県の女性団体連絡協議会、男女共同参画センターなど
公的機関から、意識啓発などを目的とする学習グループ、民間
シェルター、子育て支援など被害者支援団体など

「災害復興と男女共同参画6・11シンポジウム ―災害復興に男女共同参画の視点を」の成果

◆準備プロセスでの成果

- 全国の多様な女性団体とのネットワークの形成
- 既成のネットワークの再編成、新たな形成
- 個と個を繋ぐネットワークの広がり

◆シンポジウム開催の成果

- 政府、自治体、議員、市民社会組織、大学、女性議員、女性団体間など境界を超えたネットワークの拡大・強化

男女共同参画と災害復興ネットワーク(JWNDRR)のスタート

2011. 12. 1

復興基本法、復興基本方針に明記された男女共同参画の視点の
政策化→監視、政策の実現、さらなる推進のために

◆140団体が参加

◆組織体制

代表 堂本暁子

副代表 田中由美子(2018～) 原ひろ子(2013～2018)

事務局長 青木玲子(2020～) 大野曜(2013～2019) 原ひろ子(2011～2013)

運営委員会(多様なバックグラウンドを持つメンバーによって構成)

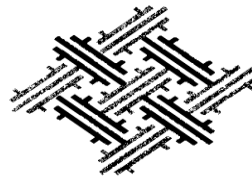
アドバイザー会議

個人会員

Jawe((公財)日本女性学習財団)との連携

男女共同参画と災害・復興2012

災害から一年 加藤登紀子さんと共に



プログラム&資料

日時：2012年（平成24年）6月23日（土） 13時～17時

会場：城西国際大学 1号館地下ホール
（東京都千代田区紀尾井町3-26）

主催：城西国際大学、男女共同参画と災害・復興ネットワーク
共催：女性と健康ネットワーク、NPO法人全国女性会館協議会、
全国地域婦人団体連絡協議会、公財・日本女性学習財団、
JAWW（日本女性監視機構）、北京JAC、男女共同参画と
災害・復興を語り継ぐネットワーク

後援：内閣府、復興庁

「男女共同参画と災害・復興2012 災害から一年 加藤登紀子さんと共に」

◆新たなネットワークの広がり

シンポジウムを前に被災地での交流 写真

宮城県南三陸町 内海 明美さん 「わたしが『さんさカフェ』を開いたわけ」

福島県浪江町 橘 柳子さん 「福島原発事故から避難して」

福島県田村市 鈴木 絹江さん 「障害を持つ女性と災害」

仙台市宮城野区菅野 澄枝さん、緑上 浩子さん「岩切・女性たちの防災宣言」

岩手県陸前高田市 佐々木 美代子さん 「被災の記録を残す」



内海明美さん(南三陸町)
岩切・女性たちの防災宣言

岩切・女性たちの防災宣言

あなたの大切な人は誰ですか？
今何かをすることで、大切な人の命を守れるなら、
すぐにそれを始めませんか？

もし、大災害が起こったら、小さな子供を抱えてどうしよう？
避難所はどこ？ 何を持っていくの？ 夫と連絡がとれなかったら？

考えることが怖くて止めてしまっている、そんなあなたの不安を話してください。
私たちはあなたの心配と一緒に考えます。
考えることで、きっと怖さが減るでしょう。

隣に住んでいる人は誰ですか？

あなたが関心を持つだけで、何かが変わるはず。
ほんの少し勇気を出して声をかけてみたら、おすそわけの野菜と一緒に
情報が入ってくるかもしれません。

一戸一戸の家庭で防災の話をしてみませんか？

いざという時、どうやっておじいちゃんを助ける？
中学生の息子だって、みんなを守る側にたつことができる。
いろんなことを家族で話します。
大好きなみんなを守りたいから。

ちょっと自分たちの備えを心掛けることができたなら
助けを必要とする周りのことを考えてみます。
誰かにあてにしてもらえることで、がんばれるような気がします。

でも、がんばりすぎて互いに疲れないように、
私も感謝の気持ちをいつもよりたくさん伝えます。
ありがとう、ありがとう、ありがとうの貯金をします。
互いに認め合うことで、つながっていききたいから。

岩切にはいろんな人が暮らしています。
親子四代共に暮らす人
新しくこの地域に住み始めた人
宮城県沖地震を体験している人、いない人。

私たちは、この岩切にある安心を伝えます。
地域防災マップがあることや
自宅の井戸や機材を「いつでもいいよ」と言って貸してくれる人がいることを

私たちは、防災について考え続けるために語り継ぎます。
昭和 53 年の宮城県沖地震で、あやうく命拾いしたことや復興までの苦労を。

私たちは、ここ岩切でみんなが安心して暮らすために、
自分たちでできることを考え行動します。
大切な人の命を守るために。
この地域で育つ子供たちのために。

平成 22 年 6 月 12 日

「災害リスク削減とジェンダー主流化 『災害と女性 世界の流れ・日本の流れ』のなかで 2013.6.8～2014.6.14

堂本代表「第4回防災グローバル・プラットフォーム」に参加

第3回国連防災会議の仙台開催が決定

→国内の活動から国際的活動への移行

奥山仙台市市長との連携

ラウンド・テーブル「WCDDRに向けての政策提言」

→「仙台提言」

内閣府男女共同参画局

「男女共同参画の視点からの防災・復興取組指針」の
策定過程への積極的参加

第3回国連防災世界会議・パブリック・フォーラム 市民防災世界会議/ピープルズ・パピリオン 延べ15万人参加 2015.3.14～18

パブリック・フォーラム

市民団体、女性団体、民間企業、大学、政府機関、国際機関など多様な主体による運営

JWNDRRとJAWE共催 テーマ館「女性と防災」

「女性の力で変革を一男女共同参画と災害リスク削減」

参加者 11か国、225人、参加登壇者、主催者を含め39

JCC2015(JWNDRRも参加、堂本代表は共同代表)

テーマ館「市民協働と防災」メインイベント「インクルージョン」

「市民防災世界会議宣言」を発表 「福島10の教訓」翻訳発行、

「市民が伝える福島世界会議」



市民防災世界防災会議
インクルージョン



多目的交流テント
ピープルズ・パピリオン

新たな挑戦
世界津波の日
国際シンポジウム(2017.10)

- ◆ インフラ整備及びコミュニティの合意形成の視点への拡大
河川、防潮堤、災害住宅の専門家、地域住民、
自治体職員とのネットワーク
- ◆ (公財)日本土木学会、世界銀行東京事務所、JICAとの連携



高層復興住宅(気仙沼市)



沖の川、防潮堤



合意形成—成功事例

◆大谷海岸

防潮堤計画の変更—砂浜を残す

三浦友行(2018 気仙沼市市会議員、JCCDRRのメンバー)

2012「防潮堤を勉強する会」をスタート

◆北上地区「にっこり団地」 まちづくり委員会支援活動

自治体との協働の仕組「WE ARE ONE北上」「納得講」

自力再建住宅と災害復興住宅

平屋建て一戸住宅 動線でつながる

防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)

2015.10.10

防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)発足、104団体、早稲田奉仕園

前身:「2015世界防災会議CSOネットワーク」 2014.1.10 期限付

JWNDRR 幹事団体、堂本暁子代表が共同代表

災害に強いまちづくりに向けて

1. 政策提言 「仙台防災枠組(2015-2030)」 「SDGs」の実施に貢献
2. DRRの主流化
3. 東日本大震災の教訓の発信

被災者の視点を重視、特に原発災害への備えの強化

国連ISDR(国際防災戦略事務局)、「第1回人道サミット」「2016伊勢志摩サミット」「仙台未来フォーラム」への参加

課題別プロジェクトージェンダーと多様性と災害小委員会

2015.10.19承認～2016.12

目的

災害政策におけるジェンダー主流化の促進

JCC-DRRのなかでのジェンダー意識の深化、行政担当者への働きかけ

反省点

毎回30名近い参加者→男性の参加者が少ない

認識は深まりつつも実践に必ずしもつながっていない

財政的問題で2016で終了

※仙台防災枠組普及冊子小委員会、グリーンインフラ小委員会、
アドボカシー小委員会、ユースエンパワメント小委員会、復興小委員会、マルチセクター
福島ブックレット小委員会

SDGs市民ネットワーク(SDGsジャパン)2016

SDGs 国連で採択(2015.9)

2013 ポスト2015NGOプラットフォーム

2013-2015 外務省との意見交換会(15回)

2016 SDGs市民ネットワーク

政策提言、地域や他セクターとの連携、SDGsの啓発

SDGs推進円卓会議(2016 政府設置)

CSOから3名参加、SDGs実施指針、改定に向けて市民社会の声

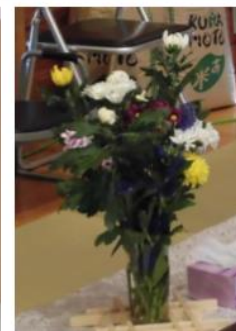
JCC-DRR

防災・減災ユニットを担当(11のユニット)

これからの課題

- ◆ ネットワークの点、主体のエンパワーメントと自分事としての認識の強化
- ◆ ジェンダー平等、多様性の視点から災害政策の検証
- ◆ ロビー活動強化のために
 - ・SDGs市民ネットワークへの積極的参加
ジェンダーユニット、減災・防災ユニット
 - ・JCC-DRRとJVOAD(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)との連携

熊本県益城町避難所 (2016)



益城だいすきプロジェクト・きままに

北部九州豪雨災害(2017.7)

福岡県杷木町中島れい子さんと

